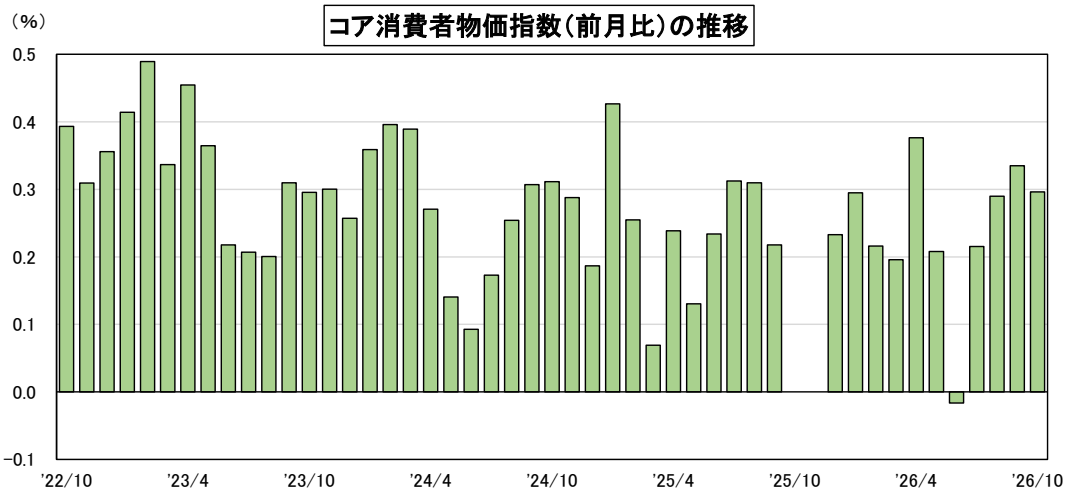


リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

（米国）高止まりが続く 10 月消費者物価指数

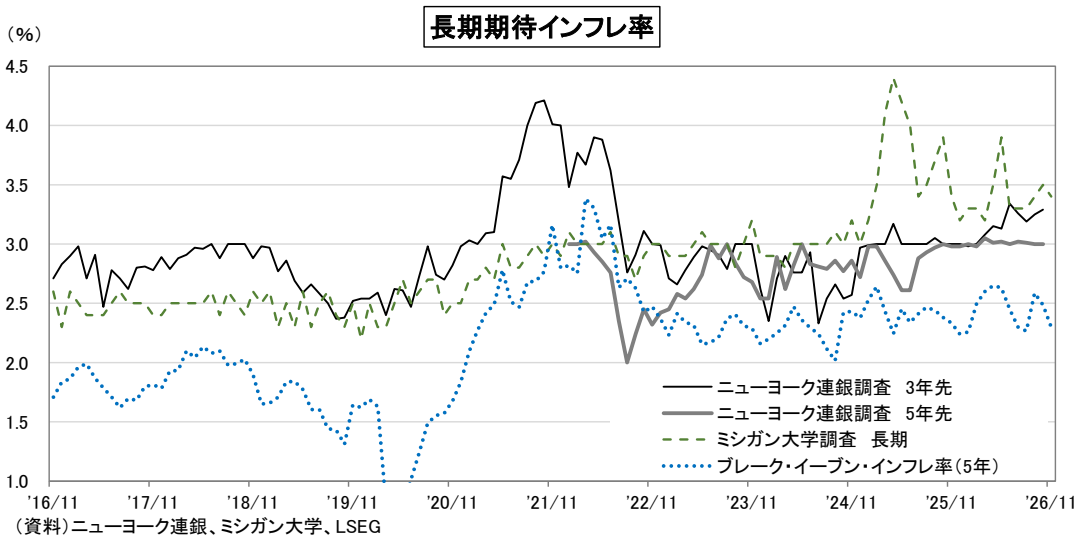
10 日に公表された 10 月の消費者物価指数（CPI）は、エネルギーが前月比 0.7%と上昇幅が 9 月の同 5.2%から大幅に鈍化し、総合は同 0.4%となった。また、エネルギーと食料品を除くコアは 3 か月連続で同 0.3%となった。全体としては高止まりが続いている。データの関係上、前年比は非公表である。

コアの内訳では、食品およびエネルギー商品を除くコモディティは前年比 0.2%、エネルギーサービスを除くサービスは同 0.3%となった。



（資料）米労働省統計局、LSEG（注）空白は欠損値。

11 月のミシガン大学消費者マインド調査（速報）での期待インフレ率をみると、1 年先は前月から 0.4 ポイント低下の 4.3%、長期は同 0.1 ポイント低下の 3.4%となった。また、10 月のニューヨーク連銀調査では、1 年先期待インフレ率は 3.9%、3 年先は 3.3%、5 年先は 3.0%と、いずれも先月から変化がなかった。最近のデータからは、期待インフレ率が小幅に上昇したとみられる。



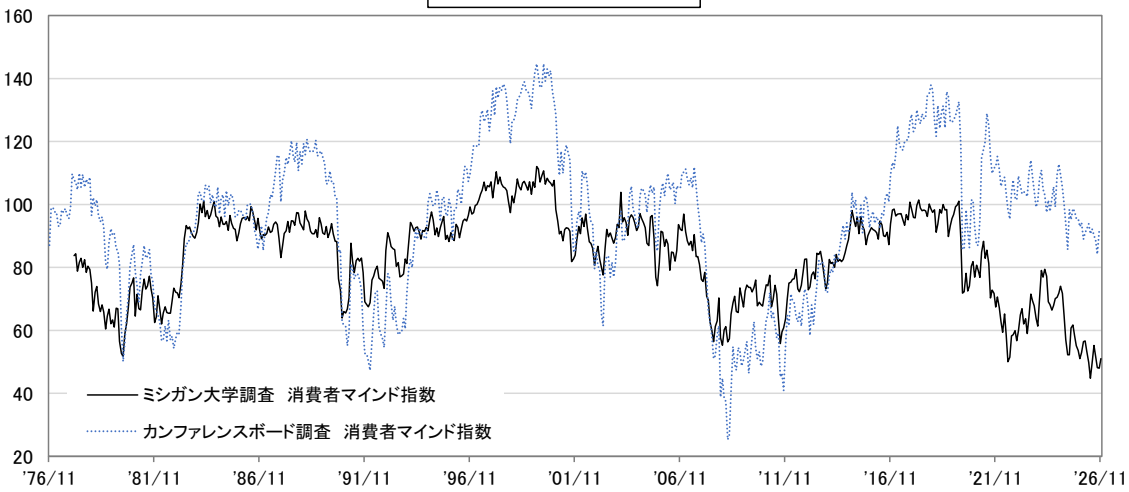
（資料）ニューヨーク連銀、ミシガン大学、LSEG

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

10 月 20 日から 11 月 2 日にかけて実施されたインタビューに基づく、11 月のミシガン大学調査の消費者マインドは、前月比約 6%上昇した。自営業者の消費者マインドの改善が顕著だった。低・中所得層の消費者マインドは改善した一方で、株式市場が比較的乱高下したことを受け、株式ポートフォリオが最も大きい層では 5%低下した。

さらに、消費者のコメントからは、消費者が依然として生活費の高騰を一番懸念していることがうかがえた。約 57%の消費者が、物価高により生活水準が低下したと自発的に言及しており、これは 5 月以来の最高水準であり、イラン紛争直前の 2 月の 46%から上昇した。生活費の高騰に比べると、AI バブルの可能性に対する不安は微々たるものであった。

消費者マインドの推移



（資料）ミシガン大学、カンファレンスボード、LSEG

金融政策への影響としては、CPI が高止まっていることから、利上げ路線を継続することになるだろう。中間選挙で民主党が大勝したことで、データセンター建設や AI 投資が鈍化し、必要な利上げ幅が縮小するとの見通しが広まった。実際にそうなる可能はあるものの、現時点ではインフレ率を見つつ、追加的に数回の利上げが必要と思われる。

なお、筆者の印象としては、覇権競争や軍事、安全保障に直結する AI 開発を、政治主導で減速させるべきかどうか、安易に結論が出るとは思い難い。一方で、AI ブームそのものの持続性に対する懸念が高まっていることもあり、先行きの不透明感は強いと思われる。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/